

対策品のマスターバック取り付け



マスターバックも新品にしたついでにマスターシリンダーも新品にしました

まず最初にボディ側に接続ピースを取りつけてから、プッシュロッドを差し込んでペダルとネジ止めする。次にマスターバック側にベローズを取り付け、プッシュロッドに被せるようにして固定する。元々付いていたパーツは特に水の侵入に対する配慮はなかったが、対策パーツではベローズの両側をクランプで固定することによって水の侵入しなくなった。マスターバックを組み付け終わったら、その前面にマスターシリンダーを組み付ける。今回はマスターシリンダーも新品交換した。

ブレーキのエア抜きとバッテリー取り付けで完成



PSM付き車両なら作業は大変です

パーツの組み付けが終わったら、新しいブレーキ液を入れてエア抜きの作業を行なう。このクルマの場合はABSしかないで、通常の方法でエア抜きをすることが出来る。しかし、PSMのような電子制御の機能が組み込まれている車両では、PIWISと呼ばれる専用のコンピュータを使い、バルブを一個ずつ閉じながら作業する必要がある。

SHOP info NEWS MOTOR



所在地: 千葉市中央区星久喜町189-1
 電話番号: 043-208-7900
 HP: <http://www.news-motor.com/>
 E-MAIL: info@news-motor.com
 FAX番号: 043-208-7901
 営業時間: 9:00~19:00
 定休日: 毎月第2月曜日 定休日
 (月曜祭日の場合は翌火曜日定休)

先月に引き続き、今月も輸入車のスペシャルショップ「ニュースモーター」で作業。丁寧な仕事+高い技術力+豊富な専門知識を持った職人の集団だ。こんなお店が自分の家の側にあつたら、と思わせる良心的お店。

GO!!

試乗に出かける石野工場長。やはり腕の立つメカは決して最後の確認作業を疎かにしないものだ。実は以前某輸入車(ポルシェではない)の整備をディーラーに出したら、整備ミスでアクセルが戻らず、事故を起こそうになったことがあった。後で聞いたら、誰も確認の試乗をしていなかった。

こんな所にもサビが...

今回の作業のために、フロントのラゲッジルームを空っぽの状態にしてみたら、マットの下側に一部赤錆が発生している箇所を発見した。恐らく、以前にこの部分にも水が侵入したことがあったことの名残だろう。しかし、このような状態にしたことで、少なくともフロント周りには事故歴がないということが良く分かった。



いずれは何らかのトラブルにつながるという保証はない。このマスターバックという部品は、簡単にいってしまうと、負圧を利用してブレーキの踏力を大きくするための装置だ。これが機能しなくなると、通常よりかなり大きな踏力でブレーキを踏まないと、十分な制動力を得ることができなくなってしまう。恐らくサポの機能そのものはそう簡単には壊れてしまわない状態にはならないはずだが、逆にブレーキの戻りが悪くなる引きずりを起こしてしまうことにはなるかもしれない。いずれにしても、重要保安部品のブレーキがこのような状態になっていることを知りながら、

そのまま済ます訳にはゆかない。ところが色々調べてみると、メーカー自身もこの問題についてある程度情報を把握していたのでは? と思われる節があった。交換のためのパーツをオーダーしたところ、既に対策パーツと思われる物に切り替わっていたのだ。この部分のトラブルは、恐らくコックピットとバルクヘッドの間の部分の水抜き穴が詰まってしまったことが原因となっており、二次的に発生するものだろう。穴が詰まるとそこに水が溜まってしまふのだが、その水位がある一定以上まで上がってしまうと、マスターバックの中に流れこんでしまい、それが錆の原因になるというわけだ。

ところが、新しく供給されてきたパーツでは、ペダルでマスターバックを押すためのプッシュロッド全体をベローズで覆ってしまい、この部分に水が溜まってもマスターバック内に侵入しないような構造に変更されていた。ただし、この対策部品に交換するためには、マスターバック本体はもちろんのこと、ベローズと接続ピース、プッシュロッドにいたるまで、一式全部交換することが必要になっている。

もし読者の皆さんの中に996のオーナーの方がいらしたら、自分のクルマのマスターバック周辺のパーツが、この対策部品になっているかどうか確認することをお勧めしておく。

ド初期モデル[98年式] 過走行ポルシェ996

996リフレッシュ計画も完成まであとわずかとなってまいりました。今月は先月に引き続き、ブレーキ関係のリフレッシュ後編。サンプル車はお馴染み98年式の超ド初期モデル、走行たぶん10万kmオーバー車。果たしてこのポルシェ996、新車の味までハウマッチ?

文●半谷浩一 撮影●森口信之
 取材協力●(株)スピードジャパン
 TEL:03-3555-8865 <http://www.speedjapan.co.jp>
 (株)ニュースモーター
 TEL:043-208-7900 <http://www.news-motor.com/>

ポルシェ 996 リフレッシュ Refresh 計画

6

マスターバックがサビだらけ!!

これがサビの原因!?



水抜き穴が塞がっていたら要注意!

マスターバックのかしめを剥がして分解してみたら、ご覧のように中から大量の錆が出てきた。皆さんの996も、中身はこんな風になっているかも? この原因は上の写真の部分、つまりトランクルームとコックピットの間に挟まれた部分に侵入した雨が、そのまま抜けずに溜まってしまったため。石野忠良工場長によると、ひどい場合には室内に水が入ることもあるという。



マスターバック取り外し



対策部品に交換するには周囲の部品一式交換がお約束

さすがにこのまま見過ごすわけには行かないのでパーツをオーダーしたら、既に対策部品に切り替わっていることが判明した。しかし、その対策部品を使用するためには、プッシュロッドを始めとして、周囲の部品一式を交換することが必要だった。マスターバック取り外しの作業はフロントフード側から行なう。まずマスターシリンダーを外し、ABSのユニットも前にずらさないで外れない。ブレーキのプッシュロッドを外すためには、室内側からペダルの所に潜り込んでネジを取り外す。実は今回一番面倒な作業はこれだった。

下のパーツが対策品



上が今回取り外したパーツで、下が新しく入手した対策パーツ。アルミ押し出し材の棒状の部品がペダルとマスターをつなぐブレーキプッシュロッド。下の対策部品ではベローズと接続ピースでこのプッシュロッドの部分を完全にシールドする構造になった。

先月号にも少し書いた通り、この996のブレーキリフレッシュの作業を行なっていたところ、私達はどうも物を見逃すことになってしまった。なんと、ブレーキのマスターバックの中身が真っ赤に錆びていたのだ。試しにかしめてある部分を剥がしてみたら、中からは上の写真のような真っ赤な錆が出てきた。とりあえず現状ではまだ機能的な問題は発生していませんでしたが、このまま放置すれば、

